

地域で愛される街路樹育成に向けた 協働型管理手法の可能性に関する研究

A study on the possibility of collaborative management method
for street trees loved by the community

川口 将武（KAWAGUCHI Masatake）

わが国の街路樹は、整備から50年近く経過し大径木となり、単調な植栽や行政の管理コスト増大、強剪定による景観悪化等から、その更新と質の改善が切望されている。街路樹管理に着目すると、自治体予算における維持管理費が縮減していく中で、行政だけの管理は限界が指摘され、官民協働の街路樹管理と新しい質の創出を同時に実現させる方法が強く求められている。そこで本研究は、沿道住民の街路樹の維持管理への参加意欲等に影響する要因の構造を明らかにし、加えて、わが国の地方自治体における街路樹の維持管理方策の状況を把握することで、協働型街路樹管理の課題について考察することを目的とする。

1年目は、東大阪市において「沿道住民の街路樹の維持管理への参加意欲等に影響する要因の構造」をアンケート調査より明らかにした。共分散構造分析の結果、『地域の価値認識』の意識が高まると『街路樹の価値認識』に対する意識も同時に高まり、互いに影響を及ぼし合いながら正の強い影響を与え合うことがわかった。『街路樹の維持管理への参加意欲』は、『街路樹の価値認識』に強く影響を受け、『街路樹の価値認識』は、『街路樹の課題認識』に及ぼす影響が弱く、『街路樹の管理状態に対する評価意識』、『街路樹の果たす役割に対する認識』に強く影響を及ぼす構造であることがわかった。今後、行政が沿道住民と共に街路樹を健全に育成する取り組みを拡げるためには、沿道住民の共通認識としての『街路樹の価値認識』の醸成が課題であるといえよう。

2, 3年目は、「地方自治体における街路樹の維持管理計画と住民参加制度の状況」と題して、人口10万人以上の自治体を対象としたアンケート調査により明らかにした。その結果、街路樹の維持管理体制や管理方式の実態、街路樹の維持管理計画や管理ガイドラインの状況、住民参加型の街路樹の維持管理制度の状況が明らかにできた。街路樹の維持管理業務は土木道路系部署を中心に言い、職員の職種は自治体規模が大きいところは、樹木の育成管理技術を有する造園職が一定を担っているものの、その規模が小さくなるにつれ土木職が中心となり、事務職が占める割合が増加する状況にあった。また、街路樹の管理方式は、業者委託がほぼ全てで行っており、職員による直営は半分未満に満たない。一方、ボランティアの関与は少ない状況にある。街路樹の維持管理の方針は、多くの地方自治体で緑の基本計画の中に位置づけられている。2015年以降、街路樹を主な対象に維持管理計画を策定し、健全な維持管理に取り組む地方自治体が増加している。2000年代以降、住民参加型の維持管理制度に取り組む地方自治体が増加し、その多くはアダプ

ト制度に基づいた道路美化の活動であることから、今後、住民の関心や価値認識を高める制度を更に拡充することが課題であるといえよう。

研究成果<査読付き>

- 1.「沿道住民の街路樹の維持管理への参加意欲に影響する要因の構造」,(川口将武,赤澤宏樹,武田重昭,加我宏之),環境情報科学 学術研究論文集 32 (環境情報科学センター),査読有,2018年,p.197-p.202
- 2.「地方自治体の街路樹に関する維持管理計画及び住民参加制度の状況」,(川口将武,赤澤宏樹,松尾薫,武田重昭,加我宏之)査読有,2020年,ランドスケープ研究 vol.83(05),p.509-p.514